

誠第三十一飛行隊 (石垣) 展開の豫定なりし
 誠第三十九飛行隊 (宮古) も九州より直接攻
 誠第四十飛行隊 (宮古) 撃せり
 誠第四十一飛行隊 (石垣)
 誠第四百十五飛行隊 (宮古)
 誠第四百十六飛行隊 (宮古)

第六十九飛行場大隊 (石垣)
 第二百五飛行場大隊 (宮古)
 第二百二十八飛行場設定隊 (宮古)
 第二獨立整備隊 (石垣)
 第十四戰團修理班 (石垣)
 誠第一整備隊 (沖繩)

三月二十六日飛行團は誠第十七飛行隊を基幹とする部隊の敵機動部隊攻撃を最初とし四月一日頃迄に三回に亘り沖繩西方

海軍の敵艦船に對し攻撃を實施し爾後引續き新に配屬せられたる飛行第十七、第十九、第二百五戰隊の特攻隊を以て沖繩周邊の敵輸送船團に連續攻撃を實施すると共に選拔せる一部の兵力を以て夜間爆撃を反復し多大の戦果を收めたり

四月五日球兵團の反撃並に聯合艦隊の總攻撃に策應して晝間強襲を準備すべき師團命令に基き飛行第二十四、第二百五戰隊をして所要の準備を整へしむると共に主力を以て依然沖繩方面に對する黎明夜間薄暮の攻撃を續行す

此頃先島群島の飛行場に對する敵の攻撃は漸く頻繁となりしが飛行團長は地上兵團の協力を得ると共に指揮下諸隊を督勵し飛行場の修復を強行して其の機能の確保に勉め以て師團直轄たる他の飛行部隊をして宮古及石垣飛行場を中繼基地として使用するに支障なからしめたり

本期間に於ける第九飛行團攻撃狀況(成果)別表第一の如し

2、第二十二飛行團

(1) 飛行團は作戰開始以來主として第二線部隊として附屬第二其の一の一の態勢に在りて戦力の充實を圖りつゝ特攻隊の編成訓練等に任じつゝありしが沖繩方面に對する攻撃の進展に伴ひ三月二十八日飛行第十九戰隊を石垣に於て又四月五日飛行第十九戰隊を宜蘭（最初は石垣の豫定なりしも宜蘭に變更せしめたり）に於て夫々第九飛行團長の指揮下に入らしめらるると共に四月一日獨立飛行第四十七中隊を師團直轄として抽出せらる

(2) 四月十日南部臺灣方面に對する情勢の變化に對應する爲新に誠第三百十七及同第三百十八飛行隊を夫々臺東及潮州に於て飛行團の指揮下に入らしめられ敵艦船に對する隨時の攻撃を準備す

3、九州方面より投入せる特攻部隊の戦闘經過

(1) 西參謀の特攻隊の掌握及推進
西參謀は「特別攻撃隊の掌握並に臺灣に向ふ前進を指導すべき」任務を受け三月十六日新田原に到着し二十五日頃迄に左記の如く部隊を掌握し轉進を準備中臺飛作命甲第二百十三號其の二を受領す

左記

- 誠第三十三飛行隊
 - 誠第三十四飛行隊
 - 誠第三十五飛行隊
 - 誠第三十六飛行隊
 - 誠第三十七飛行隊
 - 誠第三十八飛行隊
 - 誠第三十二飛行隊
 - 誠第三十九飛行隊
- 雁の巢
- 熊本（健軍）
- 太刀洗

✓ 誠第四十一飛行隊 新田原

茲に於て先づ誠第三十二飛行隊を二十五日夕次で誠第四十一飛行隊を三月二十八日夫々沖繩内飛行場に前進し神參謀の指揮下に入らしむ

更に三月二十九日誠第三十九飛行隊を沖繩に向ひ前進せしめたるも同隊は徳之島に不時着し爾後第六航空軍隷下第六飛行隊長の指揮を受け沖繩方面の攻撃に任ず

三月二十七日師團より別紙の如き電報命令に接したるを以て特攻隊の臺灣への轉進を指導すると共に第六航空軍との連絡に勉め太刀洗及福岡等を巡回して九州より沖繩への直接攻撃の爲に必要なる特攻機の増槽並に臺灣向飛行機の空輸に關し關係部と接衝す

次で三月三十一日福澤參謀新田原到着と共に其の任務を同參

謀に申繼ぎ四月三日出發する迄福澤參謀を援助す

(四) 神參謀の特攻隊を以てする艦船攻撃

神參謀は第三十二重參謀兼第八飛行師團參謀として沖繩に在りしが臺飛作命甲第二百二十三號其の二に基き逐次到着する特攻隊を指揮し別表第二の如く攻撃し緒戦勢頭甚大なる戦果を収め敵の心膽を寒からしめたり

(五) 福澤參謀の特攻隊を以てする艦船攻撃

福澤參謀は臺飛作命甲第二百二十號に基き三月三十一日新田原に到着し西參謀の任務を繼承す
當時沖繩各飛行場及徳之島飛行場に対する敵機の攻撃は漸次熾烈となり徳之島を中繼し又は沖繩飛行場の特攻隊を推進したる後行ふ艦船攻撃は不能とされるを以て福澤參謀は從來の如く在九州特攻隊を神參謀の指揮下に入らしむることなく直接新田原より攻撃せしむるを有利なりと判断し爾後の攻撃は

専ら九州より直接實施する如く指導せり
 斯くて諸隊は四月一日、三日、六日の三次に亘り攻撃を實施
 し別表第二の如く偉大なる戦果を収めたり
 次で福澤參謀は誠第三十三飛行隊の全力を九州より臺灣に轉
 進せしむると共に師團命令に基き四月十日を以て在九州特攻
 隊殘部の人員器材を第六航空軍に轉屬したる後臺灣に歸還せ

別紙

西參謀は逐次到着する特攻隊を左の如く處理すべし
 一 誠第三十一、第三十三乃至第三十五、第三十九飛行隊は適當なる誘
 導機あれば上海經由にて臺北に前進せしめ其の他は薄暮を利用し沖
 繩（舟又は地）又は徳之島飛行場に前進して神參謀の指揮下に入ら
 せむべし
 若し氣象狀況敵情等の關係上沖繩（徳之島）への前進困難なる時は
 中、北部九州に於て待機せしむべし
 二 一般の戦況氣象等の關係上南部九州より直接攻撃するを有利なものと
 確信せば前項に拘らず獨斷部署することを躊躇すべからず

其の他の師團直轄飛行部隊

(1) 飛行第十戰隊

三月二十五日沖繩群島周邊に三群の機動部隊を捕捉せし以來、
屢々沖繩方面に出動し緒戦勢頭にてける師團の攻撃を容易法
らしむ

又四月一日早朝(1)、(1)飛行場正面に對する敵の本格地上陸に
方りては逸早く其の全貌を明らかにし全般の戦闘指導に資す
ると共に爾後連続的に出動して沖繩本島周邊の空海状況を明
かして若しく師團の攻撃を容易ならしめたり

(2) 獨立飛行中隊(軍偵)の状況

獨立飛行第四十七、第四十八、第四十九中隊は作戦開始と共に
屢々沖繩周邊の海域に出動し敵艦船の攻撃(反復爆撃)特
別攻撃隊の誘導並に戦果確認、搜索等各種の任務に服し大なる
成果を収めたり

第九飛行團第一期攻撃状況一覽表

月日	標	部隊	兵力	戦果	損害
三二六	慶良間群島周 邊の敵機動部 隊に對する拂 曉攻撃	誠17F	特偵 六機	大型A一撃沈 不確實	未歸還 誠十七飛行隊 四機
三二八	沖繩本島西方 三十四〇軒敵 艦艇群に對す る夜間攻撃	誠17F 41FCS	爆撃 二機 特偵 三機	戦果不明 爆弾不發 A一 二突入を報ず	未歸還 一機
三二九	沖繩周邊敵艦 船夜間攻(爆)	41FCS	爆撃 二機	C一隻 直撃大破 大型艦一隻大破炎上 体當攻撃 (別一機夜間搜索實施)	未歸還 一機
四一	慶良間附近艦 船に對する拂 曉攻撃	誠17F 24FR 41FCS 17FR	特偵 三機 直掩 五八機 兼誘導 二機	中型丁 一炎上 大火柱 二 黒煙 二	未歸還 八機
四二	高手納西方大 型艦船夜間攻 撃	誠17F	特偵 三機	戦果不明	未歸還 二機
四三	中飛行場西方 海面輸送船團 に對する夜間 攻撃	41FCS	爆撃 四機	C又はD中破二 中型丁直撃一	未歸還 一機
四四	中飛行場西方 海面輸送船團 に對する拂曉 攻撃	105FR	三戦 九機 特攻 十一機 直掩	ナ 空中集合成立せず中止 直掩機二のみ單獨進攻 中飛行場沖炎上中の二 艦を認む	墜 落 一機
四五	中飛行場西方 海面敵大型艦 船拂曉及薄暮 攻撃	誠114F 41FCS	複戦 八機 特攻 二機 誘導	第一次〇六〇〇直掩 三機進攻 第二次一九〇〇七機 進攻 B二C二機沈	未歸還 特攻 八機 直掩 二機
四六	残波岬西方海 面大型艦船に 對する拂曉攻 撃	105FR	三戦 八機 特攻 一機 直掩 四機	〇又はd五隻轟沈 〇又はd一隻轟沈 不詳 一隻 撃破 黒煙 二	未歸還 特攻 一機 爆撃 二機
四七	中城灣内の敵 艦船夜間拂曉 攻撃	誠17F 48FCS	重偵 二機 爆撃 一機 特攻 一機	〇一 大破炎上 大型船 一撃破炎上 不確實 C一 撃沈	未歸還 特攻 一機 爆撃 二機

計	十四回	同右	四二一		四九	四八	四三	四二		中飛行場西方海面輸送船団に對する夜間攻撃	中飛行場西方海面輸送船団に對する夜間攻撃	中飛行場西方海面輸送船団に對する夜間攻撃	中飛行場西方海面輸送船団に對する夜間攻撃
			中城灣北中飛行場西方海面輸送船団攻撃	中城灣慶貞間灣内の艦船に對する薄暮攻撃	中城灣内の敵艦船夜間拂曉攻撃	殘波岬西方海面大型艦船に對する拂曉攻撃	中飛行場西方海面敵大型艦船拂曉及薄暮攻撃	41FCS	誠114F				
	百十五機	19FR	105FR	105FR	誠17F	48FCS	105FR	24FR	41FCS	誠114F	105FR	41FCS	
		直特三 掩攻戰 五五機	制直特三 空掩攻戰 四二二機	特三 攻戰 二機	特爆軍 攻擊偵 一機	爆重 擊偵 二機	直特三 掩攻戰 四一八機	直一 掩戰 四機	誘軍 導偵 二機	特複 攻戰 八機	直特三 掩攻戰 十一機	爆重 擊偵 四機	中重 破偵 四機
黒火 X T O O B A 煙柱 擊破 擊破 擊破 擊破 擊破 不確實		電 「豫定の如く攻撃入 上其の他不詳 C-1に命中大破炎	戰果不詳	戰果不詳	C-1 大破炎上 大型船一撃破炎上 (不確實) C-1 擊沈	O-1 大破炎上 O-2 一隻擊破 不詳 一隻擊破 黒煙二	不詳 大破 大丁擊沈一撃破	第一次〇六〇〇直掩 三機進攻 第二次一九〇〇七機 進攻 B-2C-2 擊沈	ナ 空中集合成立せず中止 直掩機二のみ單獨進攻 中飛行場沖炎上中の二 艦を認む				〇又はD中破二 中破一
	未歸還機 五十機	直特 掩攻 二機	制特 空攻 二機	特 攻 一機	爆特 擊攻 二機	未歸還 特攻 一機	未歸還 特攻 二機	未歸還 特攻 八機 直掩 二機		未歸還 特攻 八機 直掩 二機	未歸還 特攻 一機		未歸還 一機

九州（徳之島及沖繩を含む）方面より投入せる
特攻隊攻撃状況概況一覽表

月日	目標	部隊	兵力	出發飛行場	指揮官 又指揮官 指導官は	戦果	備考
三二七	沖繩西方 敵艦船	誠32F 41FOS	軍偵 特攻九機 誘導二機	沖繩中飛行場	謀 參 神	大型艦五 轟沈 同右五 撃破	直掩機（安齊機） 歸還す
三二八	那覇西方 敵艦船	46FCS	軍偵 誘導二機 特攻四機	同 右	同 右	中型艦三 轟沈 同右一 （黒煙一） 炎上	特攻機の内一機は 第三十二軍第一九 航空地区司令部所 屬のもの
三二九	那覇西方海 面敵艦船	誠41F	九七機 特攻五機 （九機の内四 機は出撃不 能）	同 右	同 右	中型艦三 轟沈 同右一 炎上	一機は戦果確認後 歸還す
三三一	沖繩西方 敵艦船	誠39F	一式戦 特攻五機	徳之島		不明	二機歸還 （内一機は歸還途 中徳之島に於いて クランと交戦々死）
四一	沖繩西方 敵艦船	誠39F	一式戦 特攻五機	原 田 新	謀 參 澤 福	巡洋艦一 轟沈 艦種不詳一 撃沈 同右一 炎上 （火柱二）	
四三	沖繩西方 敵艦船	誠32F	軍偵 特攻六機	同 右	同 右	戦艦 巡洋艦二 不詳一 撃沈 巡洋艦 不詳一 撃破	
四六	沖繩北中飛 行場西側海 面の敵艦	36F 誠37F 38F 誠39F	九八直協 特攻二七機 戦果確認 一式戦 一機	同 右	同 右	輸送船五 不詳二 巡洋艦三 不詳一 撃破 驅逐艦一 輸送船五 不詳四 外に火柱五 上炎は	特攻機一機沖永良 部島に不時著 確認機は喜界島に 歸還

獨立飛行中隊第一期攻撃状況一覽表

部隊	獨立飛行第四十七中隊			獨立飛行第四十八中隊						獨立飛行第四十九中隊									
	三三〇	三三一	四二	四八	四三	四一	三三一	三三〇	三二八	三二五	三二八	三三一	四一						
部隊	三三〇	三三一	四二	四八	四三	四一	三三一	三三〇	三二八	三二五	三二八	三三一	四一						
日	三三〇	三三一	四二	四八	四三	四一	三三一	三三〇	三二八	三二五	三二八	三三一	四一						
目 標	那覇西方四十軒海面敵艦	久米島東南方海面敵艦	沖繩本島西南方海面敵艦	沖繩本島西南方海面敵艦	油綿慶良間列島周邊艦船の搜索觸接	油綿本島西方三一四〇軒群の夜間爆撃	本島周邊の艦船夜間爆撃	同	同	同	中城灣内の敵艦船の爆撃	北港I臺北間の特攻機誘導	誠第百十六飛行隊臺北I宮古誘導	誠第百十五飛行隊臺北I石垣(誘導)	久米島東南二〇軒敵艦船爆撃	慶良間西側敵艦船爆撃	誠第百十四飛行隊特攻隊誘導慶良間沖繩中間敵艦船攻撃	沖繩本島北方一〇軒附近攻撃	
兵力	三機	二機	二機	二機	二機	二機	二機	二機	二機	二機	三機	三機	二機	二機	二機	四機	二機	二機	
戦 果	戦果不明	爆弾不投下	大丁一機沈	大丁一機沈	喜屋武南二〇軒艦船群あり	B又はC一撃破	丁一撃破	奇襲に成功するも不投下 戦果なし	A一撃破	船団機動部隊攻撃せるも戦果なし	O二大破炎上	O一大破炎上(一撃沈)	目的達成	目的達成	中丁一炎上	大丁一機沈	不詳一大火柱	大型丁一撃沈確實	O一機沈
損 害	なし	なし	なし	なし	なし	未歸還なし	負傷	なし	なし	一機里島に不時着	なし	未歸還 二機 將校 四名	なし	なし	なし	未歸還 一機	なし	なし	一機中破

兵力
三〇機

戦果
G 大丁四一
A 大丁三一
B 又は C 一
O 大丁三一
大丁各一

戦果
撃沈
撃破
大破炎上
撃破
炎撃上破

戦闘経過の概要

四月十二日早朝二群より成る敵機動部隊は北部臺灣に來襲せしを以て師團は一時沖繩方面に對する攻撃を中止し對機動部隊攻撃を準備（一部は實施す）せしも（作命甲第二百五十號及同第二百五十一號）其の位置の捕捉困難にして遂に其の目的を達成する能はざりしが十三日夕に至り敵機動部隊は遠く古島南方海面に遊歴せしを以て師團は再び沖繩方面に對する攻撃を開始す

此頃官古及石垣方面に對する敵機の來襲漸く熾烈となり兩島の飛行場を使用して行ふ攻撃は漸次困難となりしを以て師團は極力先島列島基地の使用を制限すると共に各機種を増槽を圖り以てなるべく多くの刀を以て臺灣より直接沖繩に對する攻撃を實施する如く準備せり斯くて四月末迄は攻撃極めて順調に進捗し大なる成果を收めたり

此頃第三十二軍の地上戦況は芳しからず逐次首里北方高地線に壓迫せられつゝありて一般の志氣必ずしも昂揚しあらざるやに看取せられしを以て師團は四月二十八日左の如き激勵電を發信す

八飛師參電第二五一六號 (四月二十八日)

球 參 謀 長 宛

天候の恢復に伴ひ天一號航空作戦愈々たけなはならんとし我が精銳の志氣衝天の概あり
切に貴軍の御健闘を祈る
尙當師團の戦力は逐次補強せられつゝあるを以て爾後逐次投入兵力を増大し間接的に貴軍に對する協力を強化する考にして今後一、二ヶ所の作戦に支障なき戦力を保有しあるに付爲念

通電先 球 (灣)

次で四月三十日夜半左記の如き第三十二軍の壯烈なる反撃の電報

に於したるを以て師團は直ちに作命甲第二百九十號を下達し全力を揮つて第三十二軍の作戦に協力する如く部署す

左 記

一、從來の大なる航空協力を深謝す

軍は五月四日より北方に對し攻撃に轉ずるに決す就ては航空攻撃の目標を左の如く限定實施し軍の攻撃に直接協力方切に配慮あり度

(1) 二日、三日兩日「嘉手納」沖「中城灣」のB、Cをなし得ればDの徹底的掃滅

(2) 攻撃開始前此、特飛行場の強度制壓

(3) 攻撃開始後も右に準じ直接的攻撃の持續

二、参考の爲攻勢構想の概要左の如し

(1) 主力はX日(四日)と豫定一黎明より右正面より攻撃に轉じ大規模なる炮の使用と相俟ちて晝夜連續北方に對し攻撃を續行し「普天間」東西の線に進出し敵第二十四軍團主力を撃滅す

三六
(a) 有力なる海上挺進隊（約一〇〇〇名）三日夜行動を發起東西
兩海岸より敵の側背に投入主力の攻撃を容易ならしむ
(b) 三日 一線部隊は敵後方に「切込隊」を侵入潜伏せしめ主
力の 開始と共に俄然起つて敵の火炮、迫撃砲、戦車等を
攻撃す

2 各部隊の戦闘経過

一 第九飛行團

(1) 四月十二日來花蓮港東方洋上近距離に現出せる敵機動部隊に
對する攻撃を準備せしも遂に之を捕捉するに至らざりしを以
て飛行團は一部を以て之に對する攻撃を準備しつゝ主力を以
て再び沖繩方面に對する攻撃を（四月廿七日）開始す
之より先師團命令（誠作命申第二五四號）に基き四月十四日
獨立飛行第四十一乃至第四十三中隊並に誠第百十四同第百十
五飛行隊を飛行團長の指揮下に入らしめらる

爾ハ飛行團は頻次に亘る空襲下克く地上兵隊と協力し敵機の
撃退を圖り損害の局限に勉むると共に連日飛行場の修復に任
じつゝ月明と天候とに恵まれ四月中旬末より五月五日に亘る
間連續不斷の攻撃を反復し敵に甚大なる損害を與へたるのみ
ならず五月四日夜に於ける第三十二軍の反撃に伴ふ逆上陸に
方りては有効に之に協力し同部隊成功の基を作れり
其の攻撃狀況（戦果）別表第四の如し

二 第二十二飛行團

第二十二飛行團は本期間逐次に兵力を抽出せられ僅かに飛行第
十七戦隊、練習機の特攻隊二隊（誠第百十七及同第百十八飛行
隊）及誠第十五飛行隊のみを掌握し隨時の戦闘を準備しつゝ訓
練並に整備に任ず

三 師團直轄戦（中）隊

(1) 飛行第十戦隊